

5-2 2/4時の指導計画

(1) 目標

- ・ 教材文「神奈川冲浪裏」の文章の展開に着目し、表現の工夫とその効果について読み取り、根拠を明確にして自分の考えをまとめることができる。
- ・ 書き手の意図に応じて、表現の工夫や展開の違いがあることを理解することができる。

(2) 展開

	学習活動	教材資料	指導上の留意点	評価規準と評価方法 Cの状況にある生徒への手立て
導入	1 本時の目標を知る。	短冊 学習計画表	○ 前時を想起させるために短冊を再配布し、黒板に貼らせた後、本時の目標と学習の流れを確認する。  ○ 表現の工夫とその効果を読み取ろう。 ○ 表現の工夫や展開に注目して読もう。	
展開	2 教材文の表現の工夫がもたらす効果について考え、全体で共有する。  「読みの観点」 ① 文体 常体・疑問文・文の長さ ②多用されている言葉 次の瞬間・富士山・波・舟・人 ③特徴的な表現 擬音語・擬態語・擬人法	ワークシート②  学習の手引き [表現の工夫]	○ 前時に各グループから出された意見（短冊）を黒板で確認し、全体でその内容を共有し合う。 ○ 生徒が見つけた表現の工夫とその効果について整理し、学習の手引きを用いて次のように説明する。  ①文体について ・既習教材の文体と比較して、特徴とその効果を確認する。 ②多用されている言葉について ・「次の瞬間」という言葉により筆者の絵のとらえ方が伝わることや、動的な表現につながることを確認する。 ・メインとしての「富士山」という描かれ方を確認する。 ※波→舟→人という筆者の視点の動きを確認する。 ③特徴的な表現について ・学習の手引きで説明する。 ※特に「擬音語」「擬態語」「擬人法」に着目させる。既習の特徴は手引きで確認させる。	学習の手引きを使って個別指導を行う。
	3 読み取った表現の工夫を絵に書き込んで、その効果を確認し、「次の瞬間」のもつ効果を再確認する。	ワークシート③		

	<p>[手順]</p> <p>1) 視点の動く順番を数字で書き込む。</p> <p>2) 擬音語・擬態語・擬人法を使った表現を書き込む。</p> <p>3) 「次の瞬間」どうなるかを教材文から箇条書きで書き出す。</p> <p>4 「なりきり作文」を書くための絵を選び、表現の工夫を書き込む。</p> <p>[手順]</p> <p>1) ワークシート①の6枚の絵から、1枚の絵を選ぶ。</p> <p>2) ワークシート④を用いて、選んだ絵の「次の瞬間」どうなるかを想像して書く。</p> <p>3) 視点を動かす順番を数字で書き込む。</p> <p>4) 擬音語・擬態語・擬人法を使った表現を書き込む。</p>	<p>色ペン</p> <p>ワークシート①③④</p>	<p>○ 絵「神奈川沖浪裏」に擬音語・擬態語・擬人法・視点の動きを書き込ませることで、視覚的に表現の工夫による効果を再認識させる。</p> <p>○ ワークシート③を拡大し、黒板へ掲示する。</p> <p>○ 記入例を示すことで、活動内容を視覚的に捉えさせる。</p> <p>○ 「次の瞬間」へ向かう筆者の想像に着目させる。</p> <p>○ 「なりきり作文」のために選んだ絵に、ワークシート③を参考にして、書き込ませる。</p> <p>○ 動的な表現にするための表現の工夫をするよう心掛けさせる。</p>	<p>読ー1 教材文「神奈川沖浪裏」の文章の展開に着目し、表現の工夫とその効果について読み取り、根拠を明確にして自分の考えをまとめている。</p> <p>言ー1 書き手の意図に応じて、表現の工夫や展開の違いがあることを理解している。</p> <p>【ワークシート②③の記述】</p> <p>「次の瞬間」を想像するための擬音語・擬態語・擬人法、視点の動きについてワークシート③を用いて個別指導する。</p>
<p>まとめ</p>	<p>5 本時の振り返りをし、自己評価をする。</p> <p>6 次時の見通しをもつ。</p>	<p>学習計画表</p>	<p>○ 本時の学習内容を振り返らせ、学習計画表に記入させる。</p> <p>○ 次時の予告をする。</p>	